

平和で豊かな沖縄県を目指す情報誌

無料

ご自由にお持ち  
帰り下さい

2019.1

No.10

# 沖縄協会だより



## 平和の絵-「戦争と平和」

### 20点連作-第20作

西村計雄 作

あけもどろの花

300号

177×307×5cm

沖縄  
平和祈念堂  
所蔵絵画紹介

〈制作意図〉 沖縄の夜明けをつげる“あけもどろの花”。しずしずと昇る荘厳な“ていだ”(太陽)の耀きは、たなびく雲を五色に染め、海原を金色に埋め尽くす。このあやなす光の渦を先人たちは「おもろ」で「あけもどろの花」と詩った。光り満ち溢れる野の花々はていだ讃歌を奏で、“木の葉蝶”や“オキナワツノトンボ”は嬉々として乱舞する。限りなく広がる平和な理想郷を描く。(昭和61年6月5日寄贈)

西村計雄(明治42年・北海道生まれ)

東京美術学校卒、藤島武二に師事。1943年文展(現・日展)特選。戦後早稲田中学校と高等学校の教師を勤め、51年に42歳で単身渡仏する。ピカソの画商カーンワイラー氏との出会いを契機に、53年よりパリを中心にヨーロッパ各地で個展を開催。その作品は、フランス国立近代美術館やパリ市美術館に買い上げとなった。フランス芸術文化勲章、パリ・クリティック賞、勲三等瑞宝章、他受賞多数。北海道岩内郡共和町名誉町民、共和町立西村計雄記念美術館開館。2000年12月4日没。

沖縄協会は、沖縄が本土に復帰するまでの間、各種の援護活動を行った特殊法人南方同胞援護会(昭和31年～47年5月)の後を受けて、昭和47年9月20日に設立された内閣府所管の公益法人です。新たに設立した財団法人沖縄協会は、南方同胞援護会の実績と経験を活用して、沖縄の振興施策に積極的に協力し、平和で豊かな沖縄県の建設に寄与してまいりました。平成23年(2011)4月1日、沖縄協会は内閣総理大臣より公益財団法人として認定を受けて「公益財団法人沖縄協会」として新たな一歩を踏み出しました。これからも、沖縄県の健全な発展と幸福な社会形成に役立つ事業を行いながら、沖縄平和祈念堂の管理運営をすることで、平和で豊かな沖縄県の建設に貢献していきます。

公益財団法人 沖縄協会

# 第40回

# 沖縄研究奨励賞

## 【自然科学部門】

### 平良 東紀（たいら・とうき）



- 所属：琉球大学農学部・教授
- 年齢：46歳
- 研究題目：沖縄産植物の生体防御および泡盛古酒香生成に関与する酵素の研究

## 【自然科学部門】

### 細川 貴弘（ほそかわ・たかひろ）



- 所属：九州大学大学院理学研究院・助教
- 年齢：43歳
- 研究題目：琉球列島の昆虫共生微生物の多様性に関する研究

## 【自然科学部門】

### 木下 光（きのした・ひかる）



- 所属：関西大学環境都市工学部建築学科・教授
- 年齢：49歳
- 研究題目：国指定重要文化財中村家住宅に関する研究

沖縄協会では、沖縄の地域振興・学術振興に貢献する人材を発掘し、育成するため、昭和54年（1979年）から沖縄研究奨励賞を設け、沖縄を対象とした将来性豊かな優れた研究（自然科学・人文科学・社会科学）を行っている50才以下の新進研究者又はグループに対し、その年ごとに3名以内に贈呈している。本年度で第40回を重ね、全国12都府県から15件の推薦応募が寄せられ、選考委員会（牧野浩隆委員長）において厳正・慎重な選考を重ねた結果、受賞者を3名に

決定した。

## 沖縄産植物の生体防御および泡盛古酒香生成に関与する酵素の研究

### 受賞理由

本研究の成果は大きく二つに分けられる。一つは沖縄産亜熱帯植物の生体防御に

平良 東紀

関する酵素の研究である。動物同様多くの植物も、病原菌から身を守る生体防御タンパク質を持っている。その一つであるキチン分解酵素（キチナーゼ）は、病原性真菌の細胞壁の主成分であるキチンを分解することと知られ、病原菌の侵入や増殖を防ぐと言われていた。植物の生体防御システムの研究は、動物やヒトの生体防御に比べ地味に見えるが、実際には動物の生存の基本でもあり、重要な研究の一つである。平良東紀氏は、沖縄県内に自生している亜熱帯植物に目をつけ、独特の手法でリュウキュウイノモトソウやナガハハリガネゴケの新奇性のキチナーゼや、ガジュマル、パイナップル、ソテツなどからのキチナーゼを単離することに成功している。このキチナーゼの研究は、亜熱帯植物の防護、保護の観点のみならず、植物一般の病害防除、ならびに新しい抗真菌剤の開発に応用できるものであり、脱化学物質の方法論の基本ともなるものである。

二つ目は、泡盛古酒香の生成に関与する酵素の研究である。沖縄特産の泡盛は、三年以上寝かせると芳醇な香りを持った古酒になることはよく知られている。香りの成分の中でも、甘い香りやバナナ香の生成過程については、解明が残されていたが、本研究は、黒麹菌のゲノム情報や遺伝子工学的手法によって、黒麹菌の持つフェノール酸脱炭酸酵素が、このバナナ香の元となる物質を作っていることを突き止めている。泡盛製造は沖縄の基幹産業の一つであり、本研究は、古酒香に富む泡盛のブランド価値を高めることに直結するものである。その成果は、現在、足踏み状態にある泡盛を、世界

の一級酒としての地位を築ける解決策として期待される。また、平良氏は、泡盛製造において県内企業とも積極的に連携しており、もろみ酢の乳酸発酵に有用な乳酸菌の選抜・発酵条件の最適化、豚の腸内細菌叢の改善に効果のある泡盛蒸留粕乳酸菌発酵飼料の開発、泡盛パンに使われている泡盛発酵風味料の開発など、泡盛製造の過程で発生する未利用部分を含めた、高付加価値化にも貢献しており、その成果も高く評価されるものである。

これらの研究成果は、学術的価値は言うに及ばず、亜熱帯地域沖縄の産業、地域振興にも大きく貢献するものであり、今後の幅広い応用を期待したい。

（比嘉 照夫選考委員）

## 琉球列島の昆虫共生微生物の多様性に関する研究

### 受賞理由

細川 貴弘

ヒトを含む多細胞生物の体内には、きわめて多くの微生物（主に細菌）が生息しており、我々はいわば微生物との共生体として存在している。こうした微生物は宿主の健康状態に様々な影響を与えていることが分かっている。中にはウシの反芻胃内の微生物類、あるいはサンゴ体内の褐虫藻のように、宿主が生きていくうえで不可欠の存在となっているものも多い。これらの微生物類が進化の過程でどのようにして宿主の体内に入り、宿主に不可欠なものになっていったのかを解明することは、生物

学の重要な課題とひとつである。

昆虫類には、宿主と共生微生物のお互いがないければ生存できないという絶対的相利共生の関係を微生物との間で結んでいるものも多い。細川貴弘氏はカメムシ類と共生微生物との関係を取上げ、とくに琉球列島に着目して長年研究を続け、多くの優れた成果を挙げてきた。とくに、最近*Nature Microbiology*誌に公表されたチャバネアオカメムシとその共生微生物に関する研究は注目すべきものである。すなわち、本土各地のカメムシは1タイプの共生微生物しか有していないのに対し、琉球列島では多数のタイプの共生微生物が見られたが、これらの微生物はいずれもカメムシの成長に有用な働きをしていた。つまり相利共生の関係にあった。ところが、琉球列島の微生物の多くのタイプは、環境の土壌中で単独でも生活していたのである。これらは絶対的相利共生への進化的移行の途上であるとみなされ、絶対的相利共生関係の進化を理解する上できわめて重要な発見である。

このような細川氏の研究は、生物多様性の著しく高い琉球列島の特徴を生かすとともに、その特徴の一部を新たに解明したものである。同氏は、琉球大学の研究員として研究していた時期はもとより、長く沖縄の自然に深く入って研究をすることにより、重要な発見を続けている。細川氏のこの姿勢は一貫しており、今後とも沖縄の自然に密着して学術振興に大きな貢献を続ける人材であると確信できる。

(西田 睦 選考委員)

## 国指定重要文化財中村家住宅に関する研究

受賞理由

木下 光

本研究は建築史、建築材料および環境工学の総合的視点から沖縄の伝統建築物の持つ特長、価値、性能をまとめたものである。

国指定重要文化財になっている中村家住宅の価値とは何か、快適な住環境は一体どこから来るのか。木下氏はこの問いに科学的メスを入れ、赤瓦や屋根の特長、取り巻く屋敷のユニーク性を中心に分析している。沖縄の伝統的住宅に対する従来の学問的視点は、主に建築史の視点であった。これに対し、木下氏らの研究は、建築史としての観点のみならず、琉球赤瓦や漆喰という地域固有の建築材料、そしてそれを造る工程、さらに温度・湿度・風向きといった環境工学の視点から念入りに検討を加え、実測調査に基づく詳細図を作成することによって総合的に中村家住宅を論じている。これは、伝統的木造住宅の評価手法を新たに提示したことにもなり、文化財としての建築物評価法に一つの知見を与えるものである。

沖縄の伝統的赤瓦屋根が優れた熱性能を持っていることは、これまでも言い伝えられてきたが、それを科学的に説明するまでには至っていなかった。木下氏は、温度だけでなく、熱の伝わり方、微風の動向といった目に見えない要因を測定し、これらの結果をふまえて建築材料や設計の工夫がどのように快適な屋根に活かされているのかを明らかにしている。また、チャギーや琉

球竹、赤瓦や漆喰という沖縄特有の建築材料の融合がどのように住快適性を生み出すのか、建物とそれを取り巻く琉球石灰岩の石垣やフクギとの調和がどのように気持ちの良い涼風を取り込むのかについても論じている。

これらの成果は、沖縄の伝統的建築物研究のみに留まらず、アジアの気候風土においてどのような瓦屋根を造るべきか、建物と屋敷の関係はどうあるべきか、という課題にまで発展させるものである。

木下氏は、中村家住宅関係者のみでなく地域住民とも積極的に交流し、文化財のもつ価値、意義について啓蒙活動も行っており、研究の学術的価値とともに、地域づくりに大きく貢献している。

(宮城 隼夫 選考委員)

## 協会事業他応募案内

### 第27回金城芳子基金の応募について

『金城芳子基金』は、沖縄女性の地位向上のために献身された金城芳子さん(1902-1991)の強い意志により、そのご遺族によって平成4年に当協会に設置され、沖縄女性のため、社会的に意義のある活動や調査研究を行う個人、団体及びグループに助成している。

第26回までに26の個人・団体に助成を実施した。第27回の応募締切は2019年3月31日。当日消印有効。

\*\*\*

### 沖縄青少年勉強支援制度について

この制度は、本土(沖縄県以外の都道府

県)で働きながら学ぶ沖縄青少年を支援し奨励するため、昭和48年に設置された。この制度に賛同いただいた沖縄出身者を含め多くの方々からの温かい寄附金でつくられた「働きながら学ぶ沖縄青少年支援基金」の運用により勉強支援金を給付し、これまで延べ11,299人の働きながら学ぶ青少年が支援を受け、習得した資格や技術を活かしてそれぞれの進路を歩んでいる。2019年度の応募は、4月1日〜6月30日まで。当日消印有効。

\*\*\*

### 沖縄平和祈念堂改修工事に関するご寄付について

開堂から41周年を迎える沖縄平和祈念堂では、現在、経年劣化による改修工事を頻繁に実施しております。今後、さらに工事の必要が考えられますので、多くの皆様に諸経費に対するご寄付を賜りますようお願い申し上げます。

\*\*\*

### 沖縄文化協会「外間守善賞」の創設

沖縄文化協会(波照間永吉会長)は、創設70周年記念事業として創設する「外間守善賞」の運営基金を設置し、1口3,000円で寄付を呼び掛けている。外間氏は当協会評議員を長きにわたり務められ、協会の発展にご尽力いただいた。

問い合わせは電話098(882)5043、沖縄県立芸術大学・鈴木耕太研究室まで。



# 芸術は平和の源泉 新しい年への希望

沖縄県立芸術大学長 比嘉康春

新年明けましておめでとうございます。

日頃は、沖縄県立芸術大学の教育研究にご理解ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、新たな年を迎え、沖縄県立芸術大学はこれから芸術教育研究に邁進していくとともに芸術活動公開講座等を通じて地域社会の芸術文化振興及び地域活性化に努めていく所存でございます。

本学では、毎年、学内外でさまざまな芸術、芸能活動を行っております。そのなかで特に沖縄協会様主催の沖縄平和祈念堂で開催されます、5月のこどもまつりに本学音楽学部琉球芸能専攻学生による三線音楽、琉球舞踊の演奏、演舞の出演と3年前から沖縄協会様との共催で新たに取組んでおります洋楽部門の教員、学生らによる演奏会(命ぬちのぐすーじさびらコンサート in 摩文仁 モーツァルトレクイエムコンサート)は、本学の地域への芸術教育の還元において最も大

について心奥から考え、そのことに深く気づかされるものであります。

沖縄協会様、平和祈念堂様におかれましては、戦没者の鎮魂ならびに平和の尊さを全世界に発信する崇高な使命を果たすために日常的にさまざまな行事に取り組んでおられることに深く敬意を表するものであります。

このような行事等に本学が少しでもお役に立てること、また厳かな演奏機会等を与えていただいていることに心より感謝申し上げます。次第であります。

今後ともますます沖縄協会様、平和祈念堂様のご発展を祈念申し上げますとともに本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 沖縄平和祈念堂 開催行事

### ライオンズクラブ

国際協会337-D地区  
ガバナリーによる記念植樹

平成30年9月8日、ライオンズクラブ国際協会337-D地区(鹿児島・沖縄)の曾山純廣地区ガバナリー沖縄公式訪問を記念して沖縄平和祈念堂前庭で記念植樹が行われた。

## 沖縄芸能協会研修ツアー

11月16日、沖縄芸能協会(勝連繁雄会長)の2018年度研修ツアー一行55人が沖縄平和祈念堂に訪れた。

はじめに平和祈念堂職員から施設の説明を受けた後、沖縄平和祈念堂の原型を制作した山田真山画伯の娘で琉球舞踊家の山田多津子副会長より山田画伯の人柄などが語られた。続いて、会員による器楽合奏・琉球舞踊・創作曲の奉納献奏が行われた。

## 平和祈念・汗水節奉納

### 「御万人響演」

11月23日、沖縄戦で亡くなった人々の慰霊と恒久平和を祈念する催し、平和祈念・汗水節奉納「御万人響演」(平和祈念・汗水節奉納実行委員会主催)が沖縄平和祈念堂で開催された。

沖縄民謡の「汗水節」(作詞・旧具志頭村出身の仲本稔、作曲・宮良朝包)の発祥の地とする沖縄県八重瀬町の町民、汗水節のゆかりの各種団体(約250人)が「歌三線舞」で「汗水節」を奉納し、約5000人の聴衆が駆けつけた。

## 沖縄ライオンズクラブの清掃活動

11月24日、沖縄ライオンズクラブ(宮平元嗣会長の皆

さん約50人による沖縄平和祈念堂宇前庭及び東側通路の清掃活動が行われた。清掃後には清浄な空間が広がった。

## 沖縄平和祈念堂「浄め」

12月26日、沖縄平和祈念堂恒例の沖縄平和祈念堂「浄め」が行われた。この浄めは、毎年大晦日の夜から元旦にかけて開催する「摩文仁・火と鐘のまつり」と新年を迎えるに当たって行われるもの。

今回は沖縄バス(株)のバスガイドと沖縄県芸振興センターの皆さん、平和祈念堂の制作に従事した糸数政次さん(沖縄県立芸術大学美術芸学部芸専攻漆芸分野教授)に平和祈念堂職員とあわせて30人が参加し、高さ約12メートル・幅約8メートルの祈念像を隅々までほこりを払い浄めた。

## 函館豆記者の取材

12月28日、第42回平成30年度函館豆記者交歓会の豆記者10人と事務局引率者2人が沖縄平和祈念堂に訪れた。

豆記者一行を迎えた新垣昌頼専務理事は、豆記者達とともに戦没者慰霊と恒久平和を祈り黙とうを捧げ、沖縄平和祈念像と山田真山画伯、堂内の20点連作絵画

「戦争と平和」の制作者で北海道出身の西村計雄画伯、霊石等について説明を行った。

函館豆記者達は、平和学習とあわせて県南部の沖縄戦関連施設を中心に視察と取材を行った。

## 第41回

### 「摩文仁・火と鐘のまつり」

12月31日から2019年1月1日にかけて第41回「摩文仁・火と鐘のまつり」を開催した。この行事は、1978年の沖縄平和祈念堂開堂の年より実施している。当日は約800人が参加し、去りゆく年をふりかえり、新しい年の世界平和を誓った。まつりのクライマックスでは、たいまつ

の灯りで幾つもの円陣を描き、午前0時を前にして清らかな祈りの歌・沖縄平和祈念像讃歌が献唱された。新年の訪れとともに平和の鐘が鳴り響き、同時に代表7人が円陣中央の聖火台に平和の火を灯し、勢いよく祈りの炎が燃え上がった。

その後、静寂が広がる中、NHK番組「ゆく年・くる年」での中継生放送が行われ、まつりの光景が全国へと届けられた。